R5年度 佐賀大学教育学部附属中学校 第二学年 単元配列表

月 前期/中期/後期	4 前期 中	月 後期	5 前期 中	5 月 中期 後期	6 月 前期 中期	後期	前期	7月中期	後期	8月 前期 中期	後期	9前期中) 月 ¬期 後期	前期	1 0 月 中期 後期	前期	11月中期後期	1 2 月 前期 中期	引 後期	1 月 前期 中期	後期	2 月 前期 中期	後期	3月前期中期
国語	「思いを伝 に適した" えを比較し	(えるため ソールは考 「三十一音で世界 いながら聞 を切り取ろう」	「人物紹介リー 「用言の活用の学習をする	-フレットを作ろ」 ことは何の意味があるのか」	「図表の役割を整「郷土のよさを何		「ビブリオバト ルをしよう」	、「漢字と仮名の調 和を意識して行書 を書こう」		季課題を対策しようし	「さまざまな視 点で物事を見つ に迫え	士の生き方 「もし助 る」 かったら	カ詞がな 「説得力のある扱 ら…」 案をしよう」	是 「お礼状を書 こう」	「お悩み相談室~『言葉の力』に迫る	る~」 「助動詞の役割 とは…」	「人物関係図を作ろ	う」「随筆を作ろう」	冬季課題	「メディアを考える「正しい」		「短歌物語を 「好きな詩を紹		「何をしたい・すべき」
考えるための技法	こう」 比較 思いを伝える	する 関連付ける・具体化する マールにつ 愛というテーマに基づいた		る 分類する 態度に着目して,人物像を捉え,人	分類する 関連 説明的文章について、文章と図表の関連	恒付ける	関連付ける	比較する	具体化す	る・抽象化する	めよう」	連付ける 分類 助詞につい 助詞につい	頁する 多面的・多角的にみるいて、指	る具体化する	具体化・抽象化する	73.77(7)	関連付ける 登場人物の設定について、登場	関連付ける 登場人 文章に表れたものの見方や考え方につ	具体化する・抽象化する日常生活の中で感じたこと	比較する 多面的・	多角的に見る	具体化する 選んだ短歌について、使用されている		関連付ける
資質・能力			物調査報告書を作成することがで 品詞の働きについて,後につなた 変化するのかに着目し,用言の流	できる。 がる言葉によってどのように語形が 活用について理解することができ	役割を考えることができる。	多様な方法で材料を集	本の 自分のお気に入りの本について、その内容や魅力に着いて、 その内容や魅力に着い分 目し、聞き手を意識して紹介することができる。	つ 行書での筆記について, 着 漢字と仮名の調和に着目 昭 し,読みやすく速く書く ことができる。	自分で選んだ課題について, ことを具体化したり抽象化す ができる。	日常生活において感じたことや考え ることに着目し,文章で表現するこ	た ついて、比較して見える共 き方につ 通点や相違点に着目し、文 章の構成や論理の展開につ いて自分の考えをもつこと まる	ついて、時代背景や めの現王に着目し、 考えをもつことがで に使うこと	きに着目 案をするのに適した資料の あり方に着目し、資料を通 切に用いて説得力のある扱	職場体験で感じたことに ついて、表現の効果に着 しいない まればとして文章 を整えることができる。	言葉の本質について、桜と言葉に 通するものに着目して捉え、相談 D悩みに答えることができる。	に共 炎者れぞれの働きに着目 し、文章の中で適切 に使用することがで	物どうしの関係に着目し、記 仕方を捉え人物関係図を作る	設定の枕草子と徒然草を比較して見えるそれ	について、語彙や表現技法 ぞれの に着目し、目的や条件と関 随筆を 連付けながら、具体的ある いは抽象的に書くことがで	2 つの文章について、使用される語の み手に与える印象の違いを考えること: 社会生活から設定した話題について、 多面的。多角的な視点をもって話し合	や筆者の述べ方に有白し、	し、短歌に描かれた世界を具現化し、 な言葉で物語を書くことができる。 選んだ詩について、心に残った表現に	自分の思いや考えを表す適切 着目し,それを引用しながら	合日が設定した課題につい て, 既習事項に着目し, 実 行することができる。
社会オリ	ることがで リエン 「E	まる。 「作ることができる。 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」		日本の諸地域の九州地方」	「武士による			D変化と幕府の政策」	夏			日本の諸地域が近畿			「近代国家の歩みと	きる。 1国際社会」	ができる。	「日本の諸地域 関東地方」	きる。	「日本の諸地域 関東地方」		詩の紹介文を書くことができる。 「帝国主義と日本」		「日本の諸地域 北海道地方」
思考操作		面的・多角的に見る の で あん で 見る で しゅう で しゅう で しゅう で もの で 見る で しゅう で しゅう で しゅう		の諸地域中国・四国地方」 関連付ける			多角的に見る	//. a 14 7 4 + ++	具体化す	る・抽象化する		日本の諸地域 中部 関連付ける			構造化す			「日本の諸地域 東北地方」 多面的・多角的に見る	具体化する・抽象化する	「日本の諸地域 東北地方」 多面的・多角的に見る		公較する 多面的・多角的	に見る	多面的・多角的に見る
資質・能力	選・選信の異・分布な	り頃日について、地域の共通点や差 よどに着目して多面的・多角的に考		ら過疎化の背景について、産業や 佐賀県の状況と比較して考察し	や地理的特色など し、その解決策を 信長や豊臣教	ウ民衆の生活の発展	展性などの視点に着	化の様子を、幕藩 目して捉え、織田 的・多角的に考察			方的特殊性に着目して捉	え、地域の環境条件や 各産業がどのように独	業の分布における傾向性や地 や地域間の結びつきなどの地 由自性・融和性をもとうとし				保の改革の失敗など などの空間的な面的・多角的に考察 結びつきなどの地域の人々の生	、災害が生じる位置や防災に取り組む人々の結びな広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域の地域という枠組みの中で、どのようにして対策生命を守ろうとしているか、多面的・多角的にあるとができる。	或間の 		改正や帝国主義へ	近代化など、近代の社会の変化の の対抗などの視点に着目して捉え して多面的・多角的に考察し、表	、江戸時代の社会の様	北方領土問題について、ロシアとの関係性などに着目して捉え、根室市を中心とした北海道本島と北方領土の地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で、北方領土問題の解決に向けて必要なことを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
数学 才!	リエン	「式の	計算」		「連立方程式」		「一>	欠関数」	夏	季課題		「一次	7関数」			「図形の調べ」	方」	「図形の性質と証明	月」冬季課題	「図形の性質	と証明」	「場合の数と	ニ確率」	「箱ひげ図とデータの活用」
思考操作		具体化・拍			関連付ける		目体的か事象につ	論する いて、2つの数量の F		る・抽象化する)、身の回りの事象を数学化して	捉	推論する 具体	本化・抽象化する			的・多角的に見る		推論する 化する 二等辺三角形について、定義や定義	理 に	推論する 分平行四辺形の定義や定理に着目して				比較する 多面的・多角的に見る ドデータについて、代表値や四分位数に
資質・能力	すること			ができないえ、抽象化すること	合、速さの問題について、2数の求めとによって、加減法や代入法で連立方 目違点を関連付けることができる。		で挺し変化に着目して捉り返し	え、理想化することになるを見いだし、推論する	えることができる。方程コ		な 直角三角形の内部の格子点			芯に着目することで、 -	ことによって、多面的・多角的な複	児点で図形を分割したり、 頂点を1つとばしたり、	、補助線を引いたりするなどして筋液	道を立 着目して捉え、特殊化することに、 星形多 て、演繹的に推論し、その性質を することができる。	よっ	正方形が平行四辺形を特殊化した	図形と見ることによって、	をもとにしたものとの関係性に着	目して捉え、理想化するこ が場合の数に基づいたもの	着目して捉え、特殊化して箱ひげ図に表 すことで、多くのデータを多面的・多 角的な視点で比較することができる。
理科		「物質の成り立ち		ぃろいろな化学変化」	「化学変化と熱の出入り」 「化学変化	化と物質の質量	」「生物をつ	つくる細胞」	夏	季課題	「植物の体の	つくりとはたらき	「動物の)体のつくりとは	たらき」	「電流	と回路」	「電流と磁界」	冬季課題	「電流の正体」	気象観測」	「気圧と風」	「天気	の変化」 「日本の気象」
思考操作		関連付ける構造化では、原子や分子のでは、	ユモデルを使うことで _{「酸化」や}	推論する で「還元」について、化学変化の前後で物	化学変化と熱の関係につい 勿 ての実験を行うことで、物 化学変化と質量の関	生論する 関係を、原子や分子をモデル	生物の細胞について、枠	類する 様々な細胞を観察し、異なる 相違点に着目することで、細	具体化す自由研究と市村アイディア賞	る・抽象化する に取り組むことで、身の回りの自然	植物の根・茎・葉のつくりと側		を通して、 動物の体のつくりと なっていた 験・観察を通して、i			比東 の関係について、直列回路と並列	較する 列回路の豆電球の明るさを比較し、電流、電圧	構造化する 無接点充電の仕組みについて、磁石とコイルでも する実験を通して、磁石と電流の磁界を関係付け	具体化する・抽象化する ミデル化 ける視点	関連付ける 園園の関係を表現である。 関連付ける 気温、湿度、気圧 気温、湿度、気圧 ないので、静電気や を時間による変化	関連付ける と天気の変化について、観測結果 で捉え、グラフ化することで、気	比較する 気圧配置と風向、風力の関係について、立体 間で、高気圧と低気圧における空気の動きを	推議 前線を伴う気象の変化に はる空気の変動に着目し	会する 多面的に見る このいて、立体的な空間にお 日本の季節の気象について、日本付近の 気団の関係性と時間による変化を、気象
資質・能力		足え、モデルを操作し、化学変化とモウ分子から成り立っていることを、化	と学反応式を使って説 分子のモデ		質の性質の変化に着目し、し、実体的にとらえ 対 実験結果を実生活で活用さ 子と関連づけ、化学 れている事例と関連付けて 量の変化を求めるる 説明できる。	学変化と質量の関係を推測し			象に対して理科的な視点で捉 や観察を通して科学的に探究	え、課題を設定し、仮説をたて、実 することができる。			接持する工夫 きの共通性と多様性 めることが の働きは複雑に関連 ポートにまとめるこ			し、条件を制御しながら電流、電 、電圧、抵抗の関係を関連付け、 いて説明できる。	電圧の大きさを測定する。結果を分析して、ク 、その性質と法則を見出すことができるととも	で捉え、磁界のようすを図解表現したり、構造化 もに、電 することで、無接点充電やICカードの仕組みを、 導と交流電流の特徴を関連づけて説明できる。	としたり 電磁誘	を関連づけることで、電子の性 質を理解し、電流の正体が電子であることを説明できる。 変化から気象の変	変化と気象の変化を関連付けて考るとともに、気温、湿度、気圧の 化を推測できる。	高気圧と低気圧の空気の動きを比較することが吹く原因を説明できるとともに、天気図が や風力を推測できる。	で、風 から風向 的に考察するとともに、 測できる。	京を関連付け、大気の動きを 要素と地理的要因を関連づけ、多面的に 考察することで、四季の気象の特徴を説 明できるとともに、天気図から気象の特 徴を推測できる。
英語 Unit 0 My S	Spring Vacation	Unit1 A Trip to Singapo	re	Unit2 Food Travels around th	the World	Unit3 My Future	Job	Stage Activity 1 A Message to Myself in the Future	夏	夏季 課題		Unit 4 the United State	es	Unit 5 Universal Design			nit 6 n Your Topic	Stage Activity 2 Research and Presentation	冬季課題 n	World	Unit 7 Heritage Sites			Activity 3 ace in Our Town
思い出を伝		ける・構造化する 具体化す	- る・抽象化する 関連付 _{お気に入り}	けける・構造化する 具体化する	する・抽象化する 四介文を書く活動におい	関連付ける・構造	造化する	関連付ける・構造化する 具体化する・抽象化する 自分に合うと思う仕事について			関連付ける・構造化す	る具体化する・抽象		りに見る 関連付け つ考えに基づき、日本社会で改		角的に見る 関連付ける てディベートを行う活動において	・構造化する 具体化する・抽象化	化する 比較する グループ 身近な話題についてクラスで調査した結果を	を報告す	関連付り	ナる・構造化する			・構造化する
	思考・判断して情 することで、聞き りやすくスピーチ 対象に応じた	に合わせた海外旅行計画をプレゼンする活るための英語表現を選択・決定し、目的やた表現の工夫をすることで、聞き手にわか	動において、伝えたい マコミュニケーションの いりやすく伝えること。 伝えること	たい内容や伝えるための英語表現を選択・治シの対象に応じた表現の工夫をすることで、と。	で、読み手にわかりやすくり伝えたりすること	こで、自分の考えなどを形成	ンタビューし合う活動におい _ 互いの考えについてたずねた 成、整理、再構築すること。 	伝え合う活動において、社会への貢献・参画意識をもち、論理の階層性を意識して話すことで、聞き手にわかりやすく伝えること。			外国人に日本の習慣やマナーを伝えの立場を考え、伝達ストラテジーで、聞き手にわかりやすく伝える。	こと。	もって社会を多面的・多	活動において、日々の生活にお 食などを関連付けて考え、社会 多角的に捉えて話すこと。また 整理、再構築すること。	ける気づき(問題意 への貢献・参画意識を 相手の意見を聞き、 と。	論理の階層性を意識して相手やシがら聞き、聞き取った内容をふる	ジャッジにわかりやすく話すこと。また、相手まえて、自分の考えなどを形成、整理、再構築	すことで、聞き手にわかりやすく伝えること		行ってみたい世界遺産について、その概要と 画意識をもって考察し、既存の知識や体験な 省略、接続、語彙結束などを駆使して話すこ	とで、聞き手にわかりやすく伝え		ポットについて、概要と課題点、 き(問題意識)や既存の知識、を どを駆使して話すことで、聞き手	本験などを関連付けて考え、指示、置き換え、省略、
TRAIN (E-Time)		E-Time① 校外学習		.ERオリエ マナーア	ime② アップ講座 郷塾		-Time③ 战場体験					E-Time③ 職場体験						E-Time④ 進路学習			E-Time④		E-Time(5) 修学旅行	
TRAIN (P. Time)				B-time	B-time はおない今によって			B-time					time	B-time 共感的·批判										
TRAIN				要約する	情報を吟味する C-Time			企画する			引用する	升を	月 9 る	的に聞く	C-Time(1)	C-T	Γime②	C-Time③		C-Time	<u>e</u> (4)			
(C-Time)					情報を集める										研究テーマを決め、 関連付ける 具体化する。	る リサーチクエス	スチョンを決定する	仮説を立てる 関連付ける 推論する		研究手法を考え、 比較する 多面的・				
/心/与 1木 ト	思考操作 分類する 情報を集めるために必要なことを改めて知														現在の自分の興味・関心を将来の追 (キャリア)と関連付け、キーワー	(生路)研究テーマに関すまでの学術分野の	する「問い」をこれ 先行研	究・事例等を関連付けた						
資質・能力	り,昨年度の研究内容を再調査することに											をもとに情報を集めたり、思考ツール を用いて研究テーマに関する知識を広 がな視点から検証し、リサーチクエスチョンに対する複数 を用いて研究テーマに関する知識を広 がなり、整理したりしながら、自分の であるメンジを発展させ、自分の研究の フチョンを発展させ、自分の研究の であるメンジを見なれた。 であるメンジを見なれた。 であるメンジを見なれた。 であるメンジを見なれた。 であるメンジを見なれた。 であるメンジを見なれた。 であるメンジを見なれた。 であるメンジを見なれた。 であるメンジを見なれた。 であると、このでは、ために対する複数 の仮説を立て、仮説を検証するた であると、 であると、このでは、ために対する複数 であると、 であると、 であると、 であると、 であると <b< td=""></b<>												
				こと。										7	通しをもつことのできる適切な課題 B定すること。	^{題を} 研究の経験から推 と。	隹論して見出すこ ┃	導き出すこと。	<u>- 1 pr</u>	するなどして多面的・多角	用的に選ぶさと。			
特別活動	「学7	校行事 校外学習」	「学校行事	大運動会」	「学級活動 なせ 「学校行	f、人は働く 事 職場体馬		1学期の振り返り	夏	季課題	「学校行	う事 合唱コン	ンクール」	「生徒会	舌動 生徒会改選」	「学級活	動学び方を考える	「学級活動 社会に生る」	き冬季課題	「学級活動	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「学級活動中3	の自分を考えて	てみよう」 1年間の振り返り
思考操作		国的・多角的に見る 異なる生活環境の中での集団生活の		付ける 意義を、学校生活と関	多面的働くことの意義、社会的・職業的	・多角的に見る		<u></u>	具体化す	る・抽象化する	他の生徒と協力して	具体化する日頃の学習や活動の	の成果を具体化して発表	<u>↓</u> 生徒会において、学	具体化する 校全体の生活をよりよくするた	現在の学習が将来の関われた通り	関連付ける の社会・職業生活の基盤になること して自己の将来に関する考えを深め	- 一 一 一 付 会 () 形 版 右 と し () 一 日 ら を 生 か .	した貝┃	具体化す中学校卒業後の進路や社会	生活に関する幅広		具体化する	するために、こ
資質・能力	在り方や4 学習活動 <i>0</i>	公衆道徳について考え、学校生活や の成果を活用するように多面的・多	連付けて理解し、規律などを身に付けること	律ある集団行動の仕方	解し、勤労観や職業感を深めたり 勤労、生産や奉仕に関わる活動に することができる。) 社会奉仕の精神を	養ったりして、進んで	•							の解決のために話し合い、合意 定したり、人間関係をよりよく きる。	形成 形成 形成	、自己を見つめ、これまでの活動を がら、主体的に新たな学習取り組も	任める行動とは何か具体化し、在 :振り 活における課題の改善に向けて貢		い情報を理解し、自分を見 自己の将来像を具体化して る。		れからどうすべきか具体 うに学校に貢献すべきか	化したり、最上級生	主としてどのよ
道徳道	徳開き	ーニス部の危機	ジコ	チュウ	カラカラ:	カラ	招かれなか	ったお誕生会	夏	季課題		泣いた赤鬼		箱	退駅伝に挑む	•	優しさの光線	命が生れるそのとき		宇宙の始まりに思	思いを寄せて	民主主義と多数決の	近くて遠い関係	
思考操作	よりよい学		相互理解について、誤解し		抽象化す 自分の正しいと判断した行動を実行 の目を気にして正しい行動ができな	することについて、		江口いとさんが書いた「招か					· た赤鬼」の童話を題材にし	目標を実現するためて新規駅伝で活躍			関連付ける 方について、努力しても上手くいか 公が養護教諭のおかげで自分の良さ	多面的・多角的に見る ず自信 自他の命の尊さについて、「いのちの音」の に気づ 産をテーマに写真を撮っているフォトグラフ	の詩と出	多面的・多角的 人間の力を超えたものに対する。 正巳が「ヒミコ」という銀河を	畏敬の念について、大内		て、「民主主義」と「多	, , ,
資質・能力	立って多面	N・多角的に考え、 日分が集団で果たす!		合い、理解し合う必要がある	え、勇気をもって正しい行動をしよ ている。		わかかったお跡生会」(の許を組材にして老ュー 去別し		· 李課題	て自分の経験と関連付け お互いの幸せを望む関係			活を通して考え、自習慣を身に付けてい	分も目標達成に向けて望ましい こうという意欲をもっている。	生きていこうといっ		「入れて とに気づき、その命を精一杯生きていこうと 欲をもっている。	(1)カアー	とに考え、人間と自然との関わえている。	りを多面的・多角的に捉			
音楽		「音楽とは?」		表現するためには?」	df	•		きの表現の違いとは?」	「合唱コンク-	ールのクラス曲を約	刀 コ		D魅力とは?」		「ベートーヴェンの交響曲第5番だいろいろな国で演奏されてい	るのはなぜだろう」	し は、どのような関わりがあるの うか?」	のだろ「アルトリコーダーの魅力とは	?」 冬季課題	「思いや意図を伝える法は?」		「思いが伝わる記		「日本語の美しい響きを生かした歌 唱表現とは?」
思考操作 資質・能力	し、曲想と	 音楽の構造や背景などを関連付 	曲のもつよさや特徴について 着目し、曲想や音楽の構造を			見わり及び音楽の多 様	************************************	、ハーモニーやフレーズの関係		る・抽象化する		構成に着目し、ふさわし\	付ける い歌い方を考えることで、ハ- 連付けながら、歌詞の内容や曲	ーモニーやフレースの - 	「特質や雰囲気を感受しながら、知覚し	覚し、それらの働きが生み出 したことと関連付けて考える	る 楽の多様性などの音楽文化について、	比較する <pre></pre>		多面的・多角的 発表会で演奏する曲について、音楽 との関わりを理解し、曲にふさわ また、自分なりの思いや意図を伝	楽表現に関わる知識や技能 しい音楽表現を考えるとと		に着目し、曲の背景や自	
<u> </u>	できる。 「多彩力	ま表現に 「黒一色の表現から空間	る。	『かり歌唱表現をすることかでさ』	通して理解することができる。		を理解しながら、歌詞のP 夫することができる。	内容や曲想を生かした表現を工		,	エ夫することができる。 「中身や気持ち			E	こともに、曲や演奏に対する評価とその 内に考え、よさや美しさを味わって聴く	くことができる。	美しさを味わって聴くことができる。		こうな	もに、自分なりの思いや意図を伝え の工夫をすることができる。		生かし、思いが伝わる表現を工	夫することができる。	して理解することができる。
夫 術	挑むのに ろう」 _{多面的・多}	まなせた	(水と筆を操る)	が」(浮世絵はすごい、文化の出会 いがもたらしたもの) 面的・多角的に見る	「ひと目で伝えるための	の工夫」(ピクト 関連付ける・構造		を紹介しよう)		ケージの工夫に注目しよう ₋ る・抽象化する		ジ	[*]) ・抽象化する		が変化す	・ するだろうか」 ・ 多角的に見る	描く」	(モダンテク きか」(岡本太郎	だる 冬季課題		ー心のイメージ	を形に」(ボックフ 具体化する・抽象化す		つ)
資質・能力		きとした表現 作者の心情や表現の意味や	図と創造的な工夫など 浮世絵の特 な特徴などを基に主題 特色や美 などの効果を生かし ら、美術を	特色や時代背景などに関心をもち、表現の しさ、作者の意図と創造的な工夫などか を通した国際理解、美術文化の継承と創造	生活の中のピクトグラムがどのよ	うな働きをしている 、出し、形や色彩なん	るか関心をもち、校内 どによる伝達の効果を					しるパッケージに注目し 生み出し、情報や気持	ノ、伝える相手や内容のほか	く的確に伝える効果	見点の違いや構図の工夫によ 見慣れた風景を視点の位置を 去を追求しながら創造的に表	る造形的なよさや美し変えて見つめ主題を生	しさを感じ取り、 生み出し 表現方 然生まれる形	(つかの素材を用いて、偶 ジや色彩、組み合わせから 新たな表現方法として活用 を認知し、他者 見や異なる考え を、より柔軟に	fの意 _方	感情やイメージなどを形や題を生み出し、形や色彩、		に関心をもち、今の自分に	合う音楽から感じ取	双ったことや考えたことを基に主 ことができる。
技術	生物	す成の技術による	問題解決物育原	からの生 生活や社会とエネ 或の技術 ルギー変換の技術	エネルギー資源の利	用	電気の利	用		季課題 の課題と実践)	電気の利	り用	運動の利	用	エネルギー	ー変換の技術に		これからのエネ ルギー変換の技 (振	<u>⇒</u> と	青報とコンピュ・	ータ	情報の表現	と伝達	情報セキュリティと情報モラル
思考操作	多面的生物を育成す	・多角的に見る 具体化することについて、環境面や経済面等の条件を	る 関連付ける 愛面的に見る・多 踏まえて設定した課題に基 よりよい地域を	多角的に見る 関連付ける 多面的に見る・多角的に見る 関連付ける 関連付ける 就社会の構築を目指 エネルギー変換の技術が生	多面的・多角的に見る 比較する 分類 自然界にあるエネルギー源が他のエネル		角的に見る 比較で	する 関連付ける 波形等、電気の物性に関		る・抽象化する	多面的・多角的に見る 比較す	→ \	具体化する	恋ルャ4フォログル	多面的・多角	的に見る 具体化	とする 関連付ける	M 関連付ける 多面的・多角的に見る 情報の技術が、さしている 持続可能な社会を実現するため な技術と関わりな	関連付ける 多 まざま こがら持 1 生 セ の ++ 4 エ ナ ア ロ	面的・多角的に見る 関連 した制品は 「社会からの欲求」	直付ける 「安全地」	多面的・多角的に見wabdasicのは、その特	ると関連付ける	分類する 関連付ける ネットワークの危険と情報セキュリティ対策
資質・能力	でき、育成環 収穫の様子 (し、収穫レポ とができる。	境の調節方法を構想して、育成計画を具体化品質や収穫量など)と、解決過程で収集した。 一トにまとめながら最適解を探り、問題解決を開かにす	することができる。 データとを関連付けて整理 の過程と結果を振り返るこ 術の役割や影響 て、説明するこ	が成の技術の見方・考 で考え、これまでの けけて生物育成の技 響、最適化につい ことができる。	に変換されて利用される仕組みを知り、機関や外燃機関、発電方法の長所・短所社会面や環境面、経済面から比較してまることができる。	T等、 きる。また、電気 とめ	をすることで、基礎的な事項 気エネルギーについて、光空 に関連した観察・実験を行った。	や熱、動力、音・信号へ			社会的側面、経済的側面、環境し、その利用の仕方を説明する。	ることができ 組みにつ 確かめる	製品に用いられている運動を ついて、モデル化し、観察・ ることができる。	<u>-</u>	ネルギー変換の環境面や経済面等の条件を 割について具体化することができる。 ネルギー変換の技術の要素と、設計する要 と振り返ることができる。	- ぬん、以近しに誅趙に基づき、 「素を関連付けて整理し、レポー	、一小小コーを探い投削が生活や仕会に果た ・トにまとめながら最適解を探り、問題解決の	している 持続可能な社会を実現するため は技術と関わりな に、これまで学んだエネルギー変 換の様々な技術を関連付け、それを利用することで実現される社 会を説明することができる。 けることができる		した製品は、「社会からの欲求」点に考慮して最適化されて開発さ		Webページについて、その特定を関連付けた表現方法を知り、着目することで、今後の制作に		について、分類、整理することができる。また、情報モラルの必要性と情報を収集・発信するときに注意することを関連付けながら知ることができる。
家庭	っ るために、 に工夫・身 か」	どのよう 「持続可能を	な社会を目指し、消費		動をとればよいだろうか」	一友人の	ためには、何をどれだけ)食生活について、アド	バイスしようー	(生活)	季課題 の課題と実践)			人の食生活につい	て、アドバイ			-和食の良さを	立とは、どのような献立だろうたとは、どのような献立だろうたとなる献立を作成しよう一	を季課題		の良さを伝え	は、どのような献立 る献立を作成しよう		「食生活を豊かにするために、どのように工夫・実践するのか」
思考操作 資質·能力	ことを、こ				捉え、自分の実態と地域社会の て、自立した消費者として責任の	問自分の食生活につい	ける、多面的・多いて健康の視点で捉え、食生活 と多面的・多角的に振り返り、	実態調査や他者との対話を		る・抽象化する					る 多面的・多角的な視点よ	り健康的な食生活で	で 献立の作成について健康や安全の	関連付ける 対点で捉え、用途に応じた食品の選択、相関したことを関連付けて工夫し、ワークを	具体化する・抽象化する 対料に シート	食文化の継承について、持続可能を	な社会の構築や生活文化の		食や食生活を取り巻く社会	具体化する・抽象化する 自分の食生活について、健康・快適・ 安全や持続可能な社会の構築等の多面 的・多角的な視点で捉え、課題を設定
		「思を関連的のでは 「表現する」 る消費行動を工夫	きすることができる。			の内容について工夫	: 多風的・多角的に振り返り、i にすることができる。				あるか評価し、改善						に表現することができる			の現状を関連付けて課題を設定し、				し、解決するための実践・改善・評価をすることができる。
保健体育		体つくり運動 見通す 関連付け			- ル / 偶数組: ダンス 面的・多角的に見る		水泳 構造化する			季課題 連付ける			数組:ソフトボー 多面的・多角的に見		奇数組:陸上(幅跳び・高跳び) 分類する 比			/偶数組:陸上(幅跳び・高跳び) 的・多角的に見る 分類する						ール/偶数組:サッカー りに見る 具体化・抽象化する
資質・能力	え、仲間 体力向上	兄地 9	犬態に着目して捉 ソフトボール う支え合い、健康や イントを意識	アルビューレッ の 夕山 ・ルについて、対話、観察、資料から技能のポープでは、個人やチームの改善点 技術、仲間との連携、ルールなど多面的・多いすることを仲間と協力しながら楽しむことが	11日 9 月日 10 兄 〇 ダンスについて、感じを込めて踊ったり、みんなでく踊ったりすることに着目し、多様なテーマから、たいイメージを具体化したり、抽象化したりしなが、他者に伝わるよう動きに変化をつけたり感情を込めして表現することができる。	表し しながら構造化	対話、観察、資料から とし、泳法の改善点に着 果題を見つけ、自分のフ	技能のポイントを意識 目し、ICTを活用しな ォームを客観的に理解	自分自身の生活習慣に ことを関連させ、健康 る改善点を見直し、疾	ついて、1学期に学習した を支えていく上で必要とな 病等のリスクを軽減する方	ダンスについて、感じを込めて踊った く踊ったりすることに着目し、多様な たいイメージを具体化したり 抽象化	こり、みんなで楽し なテーマから、表し としたりしながら、 たり感情を込めたり	少川时」・少月时ル。兄 ールについて、対話、観察、資料で ら構造化し、個人やチームの改善。 、ルールなど多面的・多角的に解え 楽しむことができる。	から技能のポイントを意 点に着目し、技術、仲間	ノノ 大只 9 〇 上し 跳び・高跳びについて、対話、観察、資料から イントを意識しながら構造化し、跳躍の各場面 改善点に着目し、ICTを活用し、力の強さ、向き ミング、助走、踏み切りなど自分なりに分類し でき、課題解決を図ることができる。	対能の 「におけ さ、タ が・多角的な視点から、チームに必要な 技術や練習方法を導き出すことができ る。	作え三化9 つ 夕山 がレーボールについて、個人の技能やポジショルールに着目し、映像やチーム内での対話活動で、多面的・多角的な視点から、チームに必要練習方法を導き出すことができる。	ロリンプロリバーの カス カス カス カス カス はいいでは、 はいいでは、 対話、観察、資料からまで通しながら構造化し、 跳躍の各場では、 な技術や おりながら はいました。 はいまでは、 は	具体化する・抽家化する (場害における様々なデータから 類におけ ではおけ ではまける様々なデータから 状や背景、要因を具体的に読み 取り、日常生活、学校生活、犯 罪被害、自然災害といった場面 において、危険予測や回避の方 法をまとめることができる。	サッカーについて、対話、観察、資料から技能のトを意識しながら構造化し、個人やチームの改善目し、技術、仲間との連携、ルールなど多面的・に解決する方法を仲間と協力しながら見つけるこきる。	ノ J H J V 一 万し る大 14 1つポインバスケットボールについて、点に着のポイントを意識しながられる多角的善点に着目し、技術、仲間などがである。ことができる。	対話、観察、資料から技能 バスケットボールに 構造化し、個人やチームの改 のポイントを意識し この連携、ルールなど多面 善点に着目し、技術 を仲間と協力しながら見つけ 的・多角的に解決することができる	ン ア 141 7 2 17 15 2 16 2 2 16 2 16 2 2 16 2 16 2 16 2	サッカーについて、対話、観察、資料から技能のポイントを意識しながら構造化し、個人やチームの改善点に着目し、技術、仲間との連携、ルールなど多面的・多角的に解決する方法を仲間と協力しながら見つけることができる。
									法について理解するこ	. こ ハ・										<u> </u>				